

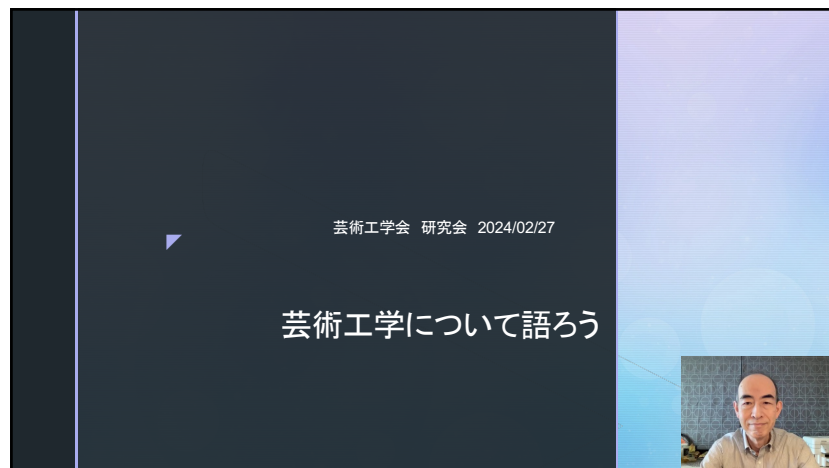
芸術工学について語ろう

大井, 尚行
九州大学大学院芸術工学研究院 : 教授

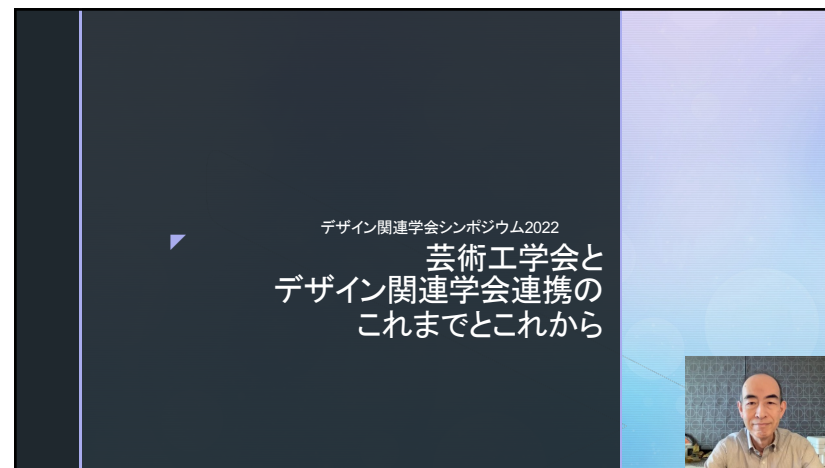
<https://hdl.handle.net/2324/7178877>

出版情報 : 2024-02-27. 一般社団法人 芸術工学会
バージョン :
権利関係 :

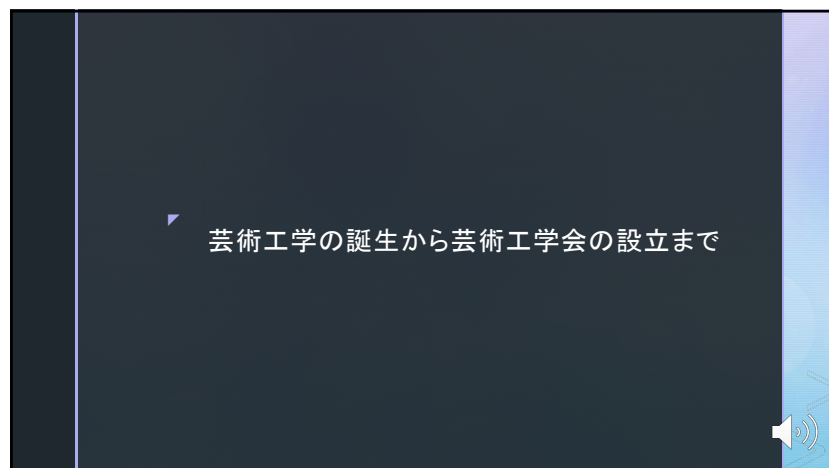




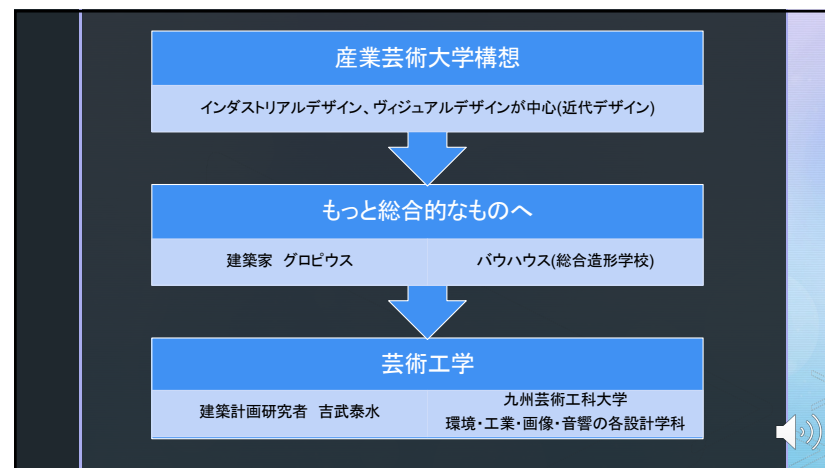
1



2



3



4

初代会長、吉武泰水先生による設立の趣旨

5

前文

来るべき21世紀を目前にして、われわれの抱えている問題は尋常でない。
資源、エネルギー、人口、食料等、地球規模の基本問題に加え、他方では人間欲求の限りない高まり、この矛盾に対応する生活設計のあり方は、正に深刻である。これらの問題に直面し、およそデザインに関わり且つその発展向上を志す者は、近未来から未来に向かってその解決策を学術的見地から追求すべき時に立ち至っている。

6

理念

「芸術」と「工学」は人間の営みにおける最もかけ離れた両極に位置すると考えられがちであるが、古来、Artは西欧では芸術を意味すると同時に技術をも意味し、両者は不可分であった。しかし産業革命以後、芸術と技術は時に分裂を生じ、互いに対立する存在ともなり、さらに近年、科学技術の急激な発達により更にこの距離は拡がろうとしている。全てのモノは機能的側面と感情的側面を備えているが、その両者を融合・統合することが重要であり、19世紀以降のヨーロッパにおけるデザイン運動もこれを目標としていた。日本においても近代以降はこれを受け継いでいるが、とくに高度成長期の経済優先・機能優先の風潮に対し人間性回復、技術の人間化が指向され、これを目的として「芸術工学」が提唱されて九州芸術工科大学が設置されたのである。

7

理念 2

九州芸術工科大学に続いて、旭川、神戸、山形に芸術工学を専攻する大学・学部が誕生し、更に各地に新設の動きがある。これは芸術工学が正に社会的に強く要望されていることの顕れである。工学部・芸術学部等におけるデザイン系学科も等しく芸術と工学の統合を指向している。また、デザイン実務界においては、従来個別の分野においてそれぞれ独自に発達してきたデザイン技術を、広く交流・統合することが望まれており、このためにはデザインの理論的・学術的研究の場の確立発展への期待は大きい。

8

理念 3

今日、技術は既に日常環境の中に融け込み、高度情報化社会といわれる社会現象もそのひとつで、多様かつ複雑に我々の生活に浸透しているが、このような技術環境の中で、デザインの課題としては人間がものをとらえたり感じたりする仕組みを明らかにすることが重要である。これはデザインの専門分野の研究のみに限定せず、人間にかかわる関係諸学を総合的にとらえる視点から展開されるであろう。芸術工学はこれのように他の学問に対しても開かれた関係に立ち、これら多くの課題に応えていかねばならない。



9

〔芸術工学会の目的〕

- (1) 芸術工学についての共通認識を確立し、その体系化・構造化を図る。
- (2) デザインとは何かを追求する。
- (3) デザインに関する学術的研究を振興する。
- (4) デザインについての情報の交流を組織する。
- (5) 国内および海外のデザイン関係機関との交流を行う。

ここにデザインについての基礎的学問である「芸術工学」の確立を目指し、またデザインに関する学術的交流の拠点として、「芸術工学会」を設立する。
(一部省略)

1992年11月27日
芸術工学会 初代会長
(故)吉武 泰水



10

■ 創立期、定着期、これからの変革・発展期に向けての学会の活動



11

歴代会長と学会の活動(大会テーマ)

創立期 芸術工学の共通認識の確立

吉武泰水(1992～1997)
松前紀男(1997～2001)
鈴木成文(2001～2005)

定着期 デザインとは何か、デザインに関する研究

佐藤 優(2005～2011)
齊木崇人(2011～2017)
黒田宏治(2017～2019)
齊木崇人(2019～2021)

変革・発展期？

大井 尚行(2021～)
芸術工学の共通認識の再確立と交流・関係先の拡大



12

人工知能 × デザイン

人工知能が活躍の場を拡大する今、我々人類には未来を俯瞰する**高次のデザイン**が必要です。このシンポジウムでは、人工知能に関わる計画・設計のみならず、さらにその上流にある**デザインの哲学**について様々な観点から意見交換を行い、問題の予見と未来への提言につなげるべく、**デザイン関連学会**に属する5つの学会から、それぞれパネリストをお招きし、基調講演・報告・ディスカッションを行いました。

17

ARTIFICIAL INTELLIGENCE × DESIGN

芸術工学会 2018年度春期大会 in 福岡
デザイン関連学会シンポジウム | 記録
人工知能 × デザイン
2018年5月20日 [日]
九州産業大学 芸術学部
15号館 1F 15102 講義室

基調講演

共創とデザイン～デザインで未来を明るくする～
ー デザインはイノベーションの救世主！ ー
加藤 公敬 日本デザイン振興会

02

報告・コメント

人間の脳・機械の脳・環境の脳
高安 啓介 意匠学会 / 大阪大学

11

AI、デザイン史から
小林 昭世 基礎デザイン学会 / 武蔵野美術大学

14

道具文化の未来ー「デジタル道具文化論」序説
藤本 清春 道具学会 / GK デザイン機構

18

芸術工学会 2018年度春期大会 in 福岡
デザイン関連学会シンポジウム | 記録
人工知能 × デザイン
2018年5月20日 [日]
九州産業大学 芸術学部
15号館 1F 15102 講義室

基調講演

共創とデザイン～デザインで未来を明るくする～
ー デザインはイノベーションの救世主！ ー
加藤 公敬 日本デザイン振興会

02

報告・コメント

人間の脳・機械の脳・環境の脳
高安 啓介 意匠学会 / 大阪大学

11

AI、デザイン史から
小林 昭世 基礎デザイン学会 / 武蔵野美術大学

14

道具文化の未来ー「デジタル道具文化論」序説
藤本 清春 道具学会 / GK デザイン機構

17

人間とAI、その創造性の『あいだ』
松岡 由幸 日本デザイン学会 / 慶應義塾大学

20

ディスカッション

高安 啓介 意匠学会
小林 昭世 基礎デザイン学会
加藤 公敬 芸術工学会
藤本 清春 道具学会
松岡 由幸 日本デザイン学会
井上 貴一 芸術工学会 (進行)

デザイン関連学会
意匠学会
基礎デザイン学会
芸術工学会
道具学会
日本デザイン学会

19

JHD 日本デザイン学会 JSSD_2022_FA home 学生プロポジション・会場

日本デザイン学会 秋季企画大会
デザイン関連学会シンポジウム
デザインの哲学 ～日本の豊かさを再考する
2022年10月1日(土)・慶應義塾大学 三田キャンパス / Zoom ハイブリッド開催
*学生プロポジションはオンラインでのみの予定です
※状況に応じて会場の変更や Zoom による開催のみに変更する可能性があります

20